

————— 日本ペプチド学会に参加して —————

本年度もジュピターバイオサイエンスは日本ペプチド学会に参加いたしました。今回は初めて(株)ジュピターバイオサイエンスジャパンとしての参加となりました。当方は仕事柄多くの同種の学会やイベント、見本市などに参加しておりますが、学術面を非常に大切にしており、展示に力を入れているという面では日本ペプチド学会のとり組はすばらしいものがあると思っております。ところでブースを構えていた中で、感心したこともありましてので、2, 3 ご紹介したいとおもいます。

ひとつは複数のインドからの留学生とお会いすることができた点です。いずれも各種奨学金制度で派遣された将来有望な学生諸君で、たった 2 年程度の留学で日本語を流暢にしゃべる姿には感心いたしました。彼らの中からきっと将来の業界を担うことが出来る優秀な人材が出てくるものと期待しております。

また欧米のトップクラスの製剤メーカーのドラッグデスカバリーを担当している人と会いましたがいずれもインド系の人たちでした。聞いて見ると西欧人はもはや、時間の制約があり、忍耐が要る開発の仕事はやりたがらないから、代わりにやっているとの、なんともさびしい話がありました。インドの人は子供の頃からクイーンズイングリッシュでの教育を受けており、言葉の面では問題ないのできっと米欧では重宝がられているのではと思います。しかし本当の発明とは地域に根ざした中からこそ得られるのではないかと理解しており、これでは何かがおかしいなと感ずるのは私だけでしょうか？

もうひとつ、突然女学生の訪問を受けたことです。彼女は弊社のブースに現れるなり、何をしている会社ですかとの唐突な質問に少々面食らいましたが、当方より丁寧に回答すると、そうですか、インドでもペプチドは合成できるのですか？そしてそれも日本よりずっと安く出来るのですか？とらんらんと輝いている瞳でコメントを残して、立ち去っていったのが印象に残りました。

実際に保護アミノ酸や合成ペプチドを作ることは手間が掛かってあまり楽しい仕事ではありません。特に液相では反応時に目を離したり手を休めたりすることが出来ないので大変です。それだけに皆丁寧にこの製品が何に使われるかを想像しながら製造しております。またインドではまだまだ安定した職を得ることは難しく、高学歴の人が喜んでこの仕事をこなしてくれます。実際に人件費は日本の 10 分の 1 位で済むと思います。それだけにこのコスト優位を生かして、日本の学生さんによりすばらしい研究をしていただきたいと、切望しております。一刻もはやくそのような仕組みをつくるのが当方の仕事と思っております。今後ともよろしく申し上げます。